

日本社会科教育学会 第 66 回全国研究大会（弘前大会）のご案内（1 次案内）

日本社会科教育学会会長 森茂岳雄
全国研究大会実行委員長 篠塚明彦

戦後 70 年以上が経過した現在、これまでの日本社会を支えてきた諸前提が大きく変容しようとしています。そうした転換期を前に、人々の間には期待感以上に不安感、閉塞感が広がっているようにも思えます。ここ青森県の現実を目を向けると、失業・雇用への不安や高齢化・人口減少の急速な進展に伴う地域存続への危機感、原子力関連施設・軍事基地の受け入れに伴う不公平感といった「負」の感情が醸成されているように見受けられます。一方で、全国的には 10 代から 20 代の若者たちが、自由と民主主義に基づく政治を求めて声をあげる姿も見られるようになりました。

日本社会におけるこのような現実を受け止めながら、改めて「平和で民主的な国家・社会」とは何かを考え、その実現に向けて社会科授業はいかにあるべきなのかを問うことを意図し、「日本社会の現実と社会科授業」を大会主題に掲げました。

第 66 回の全国研究大会を迎え、社会科教育の実践と研究が、いまとこれからを生きる子どもたちに対して、どのようにあるべきかを問い直す機会となることを願っています。本州最北端・津軽の地に所在する弘前大学が皆様をお迎えいたします。一人でも多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

なお、大会への参加、発表を希望される場合には自由研究発表の申し込み、懇親会への参加、関連行事への参加、弁当の注文につきまして、所定の期日までにお知らせいただき、費用をお振り込み下さいますよう、お願い申し上げます。

- | | |
|---------|--|
| 1. 大会主題 | 日本社会の現実と社会科授業 |
| 2. 期 日 | 2016（平成 28）年 11 月 5 日（土）・6 日（日） * 関連行事は 4 日（金） |
| 3. 会 場 | 弘前大学教育学部（〒036-8560 弘前市文京町 1 番地） |
| 4. 主 催 | 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門 |
| 5. 後 援 | 青森県教育委員会 弘前市教育委員会 青森市教育委員会 |
| 6. 日 程 | |

第 1 日目 11 月 5 日（土）

8:30	9:30	12:00	13:30	16:15	17:15	17:30	19:30
受付	自由研究発表 I	昼食 評議員会	シンポジウム	総会	移動	懇親会 (大学会館)	

第 2 日目 11 月 6 日（日）

8:30	9:00	12:00	13:00	15:30
受付	自由研究発表 II	昼食	課題研究発表	

7. 関連行事

授業公開	2016（平成 28）年 11 月 4 日（金）
会場	弘前大学教育学部附属中学校（〒036-8152 弘前市学園町 1-1）
内容	地域課題に向き合う社会科授業（仮）
受付	13:20
授業	13:50～14:40
研究協議会	14:55～16:30

8. シンポジウム

テーマ 「地域再生」に向き合う社会科授業 ―東北の現実から考える―

[趣旨]

青森県では、折からの人口減少・少子高齢化を背景としながら、地域経済の衰退や自治体財政の悪化、それに伴う地域コミュニティの弱体化などが課題となっています。その一方では、都市部の豊かな生活や日本国民の平和な暮らしを支えるために原子力関連施設や米軍基地との「共存」を余儀なくされ、住民たちは経済成長や安全保障といった政策の負担を背負わされてきたとも言えます。なぜ、本州最北端の地にこのような矛盾が生まれてきたのでしょうか。また、「地域が再生する」とはどのような状態を指し、その実現をいかに進めていけばよいのでしょうか。そして、「平和で民主的な社会の形成者」の育成を担う社会科は、こうした「地方」が直面する諸課題とどのように対峙し、地域再生を担う人材の育成にどのように関わることができるのでしょうか。

本シンポジウムでは、東北（北東北）という日本社会におけるいわば「周縁」と位置づけられてきた地域の現実に焦点をあて、その問題の構造や歴史的な成り立ちを読み解きながら、「地域再生」と向き合う社会科授業のあり方を探ってみたいと思います。

コーディネーター	棚橋健治（広島大学）	篠塚明彦（弘前大学）
シンポジスト	山下祐介（首都大学東京）	
	河西英通（広島大学）	
	竹内裕一（千葉大学）	
	三浦博英（青森県外ヶ浜町立三厩中学校）	

9. 課題研究

I 18歳選挙権と主権者教育

コーディネーター 磯山恭子（静岡大学） 吉村功太郎（宮崎大学）

[趣旨]

選挙権年齢が 18 歳に引き下げられたことを受けて、高等学校を中心に選挙や政治参加を意識した学習活動が広がっています。しかし、18 歳選挙権の問題は、単に高等学校だけの問題ではなく、本来は中学校やさらには小学校からの社会科の学習のなかでもしっかりと意識されるべきものであるはずで、18 歳選挙権の問題を中心に据えながら、改めて社会科における主権者教育について議論を深めていきたいと思っています。

II 子どもを取り巻く現実と社会科授業の成立

コーディネーター 重松克也（横浜国立大学） 真島聖子（愛知教育大学）

[趣旨]

格差・貧困の広がりや家族形態の変容、新しいコミュニケーション・ツールの浸透など、子どもたちの生育環境が大きく変化する中で、この現実をどのように捉えるかが社会科の授業づくりにとっても重要になりつつあります。このような子ども世界の変化に焦点をあて、その課題や可能性を探りながら、どのような学習が求められているのかを考えてみたいと思います。

Ⅲ 社会科におけるアクティブ・ラーニングの課題と可能性

コーディネーター 鎌田和宏（帝京大学） 松本康（信州大学）

[趣旨]

アクティブ・ラーニングが次期学習指導要領で柱の一つとされ、その在り方を巡って学校現場では戸惑いと混乱が生じています。そしてその混乱は、学びの形式ばかりに注目がおよび、内容面が等閑視されるという現実をも生み出してはいないでしょうか。社会科本来の目標が達成されるためには、どのようなアクティブ・ラーニングの姿が必要なのでしょう。社会科の内容論と方法論の結合したアクティブ・ラーニングの在り方について探っていきたいと思います。

Ⅳ 東日本大震災の経験をどのように授業に活かすか

コーディネーター 初澤敏生（福島大学） 大澤克美（東京学芸大学）

[趣旨]

東日本大震災から5年が経過した現在、震災の経験や被災地の実態を踏まえた社会科授業のあり方が問われています。当然ながら、被災地の学校と被災地以外の学校とでは、授業で取り上げるべき内容や視点が異なりますし、被災地の中でも被災状況によって内容や視点が異なってきます。この課題研究では、こうした学校が置かれた状況の違いを踏まえて、震災の経験をどのように社会科の授業に活かすべきかについて、議論を深めたいと思います。

Ⅴ 教職大学院における社会科教育研究の現状、課題と可能性

コーディネーター 成田喜一郎（東京学芸大学） 吉水裕也（兵庫教育大学）

[趣旨]

教職大学院が発足してまもなく10年が経過します。教職ジェネラリストを育成する教職大学院における社会科教育研究は、どのように行われているのでしょうか。修士課程で行われている社会科教育研究と教職大学院で行われている社会科教育研究には違いがあるのでしょうか。また、今後、教職大学院における教科教育導入、教科教育の教職大学院化が進むことになると、どのような社会科教育研究が可能になるのでしょうか。さらに、どのような社会科教育研究に重点をおく必要性がでてくるのでしょうか。本課題研究では、教職大学院における社会科教育研究の成果を批判的に検討し、その課題を明らかにしつつ、可能性を展望したいと思います。

10. 大会参加の申し込みについて

(1)参加費

①大会参加費

一般会員 : 3,000 円（事前登録） 3,500 円（当日受付）
学生・院生会員 : 2,500 円（事前登録） 3,000 円（当日受付）
非会員 : 3,500 円（事前登録・当日受付）

②懇親会参加費

会員・非会員 : 4,000 円（事前登録） 5,000 円（当日受付）

③弁当代（お茶付き）

第1日目のみまたは第2日目のみ : 600 円 両日 : 1,200 円

【振り込み先】 ゆうちょ銀行

口座記号番号 : 02240-9-140191

口座名 : 日社会学弘前大会実行委員会（ニッシャガクヒロサキタイカイジッコウイインカイ）

(2)大会参加の登録について 【締め切り】2016（平成28）年9月30日（金）

◇ 振り込みも忘れずにお願いいたします。大会参加の登録を済ませただけでは事前登録となりませんのでご注意ください。

- ① 大会への参加は、下記の日本社会科教育学会ホームページの第 66 回全国研究大会（弘前大会）をご確認の上、「大会参加申し込み専用サイト」からお申し込み下さい。申し込み専用サイトをご覧にならない方は、同封の用紙にて同様の内容をメールまたは FAX でお送り頂いても結構です。

日本社会科教育学会 HP : http://socialstudies.jp/ja/research_conference.html

大会参加申し込み専用サイト : <http://jass66th-taikai.com/registration/form1>

※原則として、申し込み専用サイトからのお申し込みをお願いしております。

- ② 大会の受付事務は、弘前大学生協（担当：芹田美穂子）に委託しております。連絡先は、メールアドレス：jass66th-office@hirosaki.u-coop.or.jp、FAX : 0172-36-6965 になります。
- ③ 大会参加申込用紙と振込用紙を同封いたします。大会参加の登録、大会参加費・懇親会参加費・弁当代の振り込みは、全て **9月30日（金）** が締め切りです。
- ④ 振り込みが確認できた時点で、大会参加の事前登録の完了とみなします。なお、事前登録された方には、当日配布する『大会発表論文集』を確保します。当日の受付の混雑を緩和するためにも、可能な限り、事前登録をして下さい。
- ⑤ 10月28日（金）までの事前登録のキャンセルは、振込手数料を除いて返金いたします。弘前大学生協（担当：芹田美穂子）にご連絡下さい。

11. 自由研究発表の申し込みについて 【締め切り】7月29日（金）

◇大会参加の登録も忘れずにお願いします。大会参加の登録と締め切りが異なります。

◇自由研究発表の申し込みは会員に限ります。

- (1) 自由研究発表の申し込みは、大会参加の登録時に、下記の「自由研究発表申し込み専用サイト」からお申し込み下さい。送信する項目は、①氏名、②ふりがな、③所属、④連絡先（住所・電話・FAX）、⑤メールアドレス、⑥自由研究発表題目、⑦プロジェクターの使用の有無になります。

自由研究発表申し込み専用サイト : <http://jass66th-taikai.com/abstract/form1>

自由研究発表は、申し込み専用サイトからの申し込みを原則といたしますのでご協力下さい。申し込み専用サイトをご覧にならない方は、同封の用紙と同様の内容をメールまたは FAX でお送り頂いても結構です。連絡先は、上記 10 の(2)②と同様となります。

- (2) 自由研究発表の申し込み完了後に受付の確認メールが自動送信されます。自動送信メールを受信しない場合は、大会事務局に直接お問い合わせ下さい。
- (3) 自由研究発表の申し込みは、**7月29日（金）** が締め切りです。
- (4) 自由研究発表に関する連絡は、全て記載のメールアドレスにて行いますのでお間違いのないよう、ご注意ください。
- (5) 『大会発表論文集』の原稿は、**9月2日（金）** が締め切りですので、ご準備下さい。『大会発表論文集』の原稿に関する詳細（原稿様式・提出方法）は、自由研究発表の申し込み者への受付完了自動送信メールをご確認下さい。
- (6) 『大会発表論文集』の編集事務は、弘前大学生協（担当：芹田美穂子）に委託しております。
- (7) 自由研究発表の発表時間は、発表 20 分、質疑応答 10 分（計 30 分）です。自由研究発表に関する詳細（発表時間・発表会場）は、大会プログラム（2次案内、10月初旬発送予定）に掲載します。
- (8) 発表の際は、事務局で準備するプロジェクターをご利用頂けます。プロジェクターをご利用の方は、ご自身のパソコンをご持参下さい。その他の機材の使用を希望される場合は、自由研究発表の申し込み時にお問い合わせ欄に記載して下さい。

12. 会期中の昼食（弁当）について

弘前大学周辺にはコンビニ・飲食店があまり多くありませんので、弁当の注文をおすすめいたします。弁当は 5 日（土）・6 日（日）ともにお茶付きで 600 円です。弁当の注文は、大会参加の登録時に、申し込み専用サイトから送信してお申し込み下さい。申し込み専用サイトをご覧にならない方は、同封の用紙と同様の内容をメールまたは FAX でお送り頂いても結構です。

※ 5 日（土）は生協食堂をご利用いただくことも可能ですが、規模が大きくないために混雑も予想されます。

15. お問い合わせ先

(1) 大会参加の事前登録, 自由研究発表の登録, 大会参加費・懇親会費・弁当代の振り込み, 『大会発表論文集』の原稿提出についてのお問い合わせ

日本社会科教育学会第 66 回全国研究大会 (弘前大会) 実行委員会 受付部

芹田美穂子 (弘前大学生協)

メールアドレス : jass66th-office@hirosaki.u-coop.or.jp

FAX : 0172-36-6965

TEL : 0172-34-4806

(2) 上記以外の事項

日本社会科教育学会第 66 回全国研究大会 (弘前大会) 実行委員会 事務局長 小幡史朗

〒036-8560 弘前市文京町 1 番地 弘前大学教育学部

メールアドレス : f-kodama@hirosaki-u.ac.jp

※お問い合わせは, メールでお願いします。

【弘前市内ホテルリスト】

〔弘前駅周辺〕		
ホテルナクアシティ弘前	弘前市大町 1-1-2	0172-37-0700
東横イン弘前駅前	弘前市駅前町 1-1-1	0172-31-2045
ブロッサムホテル弘前	弘前市駅前町 7-3	0172-32-4151
ホテルルートイン弘前駅前	弘前市駅前町 5-1	0172-31-0010
駅前ホテルニューレスト	弘前市駅前町 14-2	0172-33-5300
〔中央弘前駅周辺〕		
弘前東栄ホテル	弘前市土手町 166	0172-32-4151
弘前パークホテル	弘前市土手町 126	0172-31-0089
弘前国際ホテル	弘前市土手町 73-2	0172-37-5550
スーパーホテル弘前	弘前市土手町 148	0172-35-9000
〔弘前公園周辺〕		
ホテルニューキャッスル	弘前市上鞆師町 24-1	0172-36-1211
弘前プラザホテル	弘前市代官町 101-1	0172-35-0345
ドーマーイン弘前	弘前市本町 71-1	0172-37-5489
弘前グランドホテル	弘前市一番町 1	0172-32-1515

※中央弘前駅周辺から弘前大学 (文京町キャンパス) へは徒歩 10~15 分程度です。

※宿泊施設は青森市内にもありますが, 青森-弘前間は JR で 40~50 分ほどかかり, 本数も多くありませんのでご注意ください。

【締め切り一覧】

自由研究発表申し込み : 2016 (平成 28) 年 7 月 29 日 (金)
『大会発表論文集』原稿 : 2016 (平成 28) 年 9 月 2 日 (金)
大会参加の登録 : 2016 (平成 28) 年 9 月 30 日 (金)
参加費等振り込み : 2016 (平成 28) 年 9 月 30 日 (金)